

アクションプラン評価

所属名	教育委員会(事務局) 教育総務課
(1)項目	<p>4 文化・芸術の振興と文化財の保存・活用</p> <p>(1)文化・芸術活動の一層の振興</p> <p>【目指すところ】</p> <p>①文化・芸術振興による地域の「創造性」の向上</p>
(2)取組の方向	<p>①アーティストや文化団体への支援、支援団体等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーティストや鳥取文化団体連合会等の文化団体への支援。 ・文化・芸術活動を支援する方々と連携した文化・芸術活動の活性化。 <p>②文化・芸術を発表する場や鑑賞する機会の拡充等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民が文化・芸術を発表する場や鑑賞する機会の拡充。 ・財政事情が許せば県民合意を得た上での美術館の建設。 <p>③アーティストリゾートの展開促進等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アーティストリゾート」の展開の促進。 ・心豊かな県民生活、ネットワークづくり、地域の魅力向上などの付加価値の創造への貢献。 <p>④文化・芸術に触れ、感性を磨く機会の確保【再掲2-(2)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育現場や地域で、子ども達や若者が文化・芸術に触れ、感性を磨く機会の確保。 <p>⑤文化・芸術が生活の一部となる生活スタイルの浸透促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃から文化・芸術に触れる機会を拡充し、文化・芸術が生活の一部となる生活スタイルの浸透の促進。
(3)H24アクションプランの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術家、団体等に対する活動支援や「とりアート(鳥取県総合芸術文化祭)」の開催支援等を行います。 ・県内の高校、特別支援学校の生徒に、文化施設等において芸術を鑑賞する機会を提供するほか、アートスタートの取組みを行う団体への支援、「ジュニア美術展覧会」の開催などを行います。 ・高等学校等の文化部活動への支援を行います。
(4)主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ▽第10回とりアート(鳥取県総合芸術文化祭)開催事業 ▽鳥取県文化芸術活動支援補助金 ▽鳥取県ジュニア美術展覧会開催事業 ▽アートスタート「次世代鑑賞者育成事業」 ▽芸術鑑賞教室開催補助金 ▽文化芸術活動支援事業 ▽文化部パワーアップ事業 ▽豊かな創造力育成事業 ▽まんが王国とっとり応援団事業 ▽伝統芸能等支援事業

(5)最終評価

①文化・芸術振興による地域の「創造性」の向上

最終評価	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> <p>ほぼ計画(予定)どおり推進している。</p>	評価理由	<p>【小中学校課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成24年度末に補助金交付要綱を改正し、平成25年度からは全国中学校総合文化祭等の全国レベルの大会派遣にも補助対象を拡大した。 ○生徒たちの発表の場をより多く設けることができ、県内における文化的活動の取組が推進された。 <p>【高等学校課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高校生まんが王国とっとり応援団に14校212名が参加し、積極的な活動を行った。 ○近畿高等学校総合文化祭の部門参加率が100%を達成した。 <p>【文化政策課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「アートスタート事業」では、前年に比べ事業件数が若干減ったものの、未実施だった町が新たに取り組むなど、地域の拡がりが見られた。また、今年で10回目の節目を迎えた「県ジュニア美術展覧会」では、記念講演の実施や記念図録の発行等により、児童・生徒や学校現場への意識啓発を一層図ったほか、過去最高の出品数を記録するなど活動機会の拡充に寄与した。また、昨年度、(財)鳥取県文化振興財団へ業務移管を行った「芸術鑑賞教室」では、財団のノウハウをを活かし、また学校現場のニーズを踏まえた公演選定により昨年度を上回る公演件数が実施されるなど、子どもたちや若年層に対する文化活動の場や鑑賞機会が充実されつつある。 ○さらには、県の主要政策として取り組んでいる「アーティストリゾート」の全県的な推進に向け、今年度新たに推進組織を立ち上げるとともに、県内4ヶ所での事業実施・成果発表会を通じてアートを活用した地域づくりへの関心を高めることができた。
------	---	------	---

(6)平成24年度の取組状況と成果等

①文化・芸術振興による地域の「創造性」の向上

H24の取組と成果

<p>【小中学校課】 ○県内の中学校の文化活動の推進を図るため、鳥取県中学校総合文化祭の開催について、鳥取県中学校文化連盟に対して補助を実施した。 ○文化政策課や文化振興財団と連携を取って、文化事業の体験機会を広げるため情報提供等に協力した。</p> <p>【高等学校課】 ○中学校、高等学校の文化部活動への支援を行い、近畿高等学校総合文化祭鳥取大会に向けて文化部活動の発展・充実を図った。 ○高校生まんが王国とつとり応援団を結成した。</p> <p>【文化政策課】 ①芸術・文化活動の活性化を図るため、引き続きアーティストや文化団体等への支援に取り組むとともに、県文化団体連合会等の活性化を図る仕組みを整えた。 ②芸術・文化を発表する場や鑑賞する機会の拡充のため、23年度に策定した「とりアート構想」に基づき、24年度から新たな「とりアート」に取り組んだ。また、「とつとり伝統芸能まつり」では民間主体の事業実施へ改めた。 ③アーティストリゾートの全体的な取組展開を促進するため、従来の取組に加え、24年度は、新たに文化芸術NPOやまちづくりNPO等が参加する推進組織を立ち上げ、当該取組を進める上で必要な技術や知識の蓄積と人材育成を進めた。 ④子どもたちや若者の芸術・文化に触れる機会の確保等のため、引き続き「県ジュニア美術展覧会」、「芸術鑑賞教室」を開催した。 ⑤芸術・文化が生活の一部となる生活スタイルを浸透させるため、アートスタート事業の実施に当たっては、未実施地域の解消に向け、引き続き、実施主体となる市町村の意識啓発を図った。</p>	<p>【小中学校課】 ○生徒たちの発表の場をより多く設けることができ、県内における文化的活動の取組が推進された。 ○ジュニア県展では過去最高の出品数と入場者数を記録した。</p> <p>【高等学校課】 ○文化部活動振興のために、県高等学校文化連盟、県吹奏楽連盟に補助金を交付し、文化部活動を充実させることができた。 ○高校生まんが王国とつとり応援団に14校212名が参加し、連携してマンガサミットへの機運を高めた。</p> <p>【文化政策課】 ①鳥取県文化芸術活動支援補助金の認定件数は17件と昨年度(18件)より若干減ったが、「優れた芸術・文化活動支援事業」や「芸術・文化活動ステップアップ支援事業」の件数は増えており、質の高い活動やレベルアップへの取組が見られる。また、県文化団体連合会開催の文芸分野入門講座への参加者増、市町村分野入門講座を通じてのミュージカル団体の連携強化など、活動のすそ野の拡大へ寄与している。更に、今年度新たに県に設置した「県文化芸術事業評価委員会」により連合会加盟団体助成事業を評価して改善につなげていくこととしており、加盟団体実施事業の一層の活性化を図る仕組みを整えた。 ②「新生とりアート事業」では、メイン事業不実施年度比較では、前回(22年度)を大幅に上回る鑑賞者の増加、「県美術展覧会」では、一般応募が昨年度より11件増加するなど、県民の芸術・文化を発表する場や鑑賞機会の拡充に寄与したほか、「とつとり伝統芸能まつり」では、来場者数が昨年度に比べ減ったが、今年度からNPO法人による実施(委託)に切り換え、民間の力を活かした仕組みへ改めた。 ③引き続き「鳥の演劇祭」や「岩美現代美術展」の開催を支援するとともに、アーティストリゾートを進める上で必要となる技術やノウハウの蓄積、人材育成を図るための組織「暮らしとアートとコノサキ計画実行委員会」を立ち上げ、県内4ヶ所での事業実施・成果発表会を通じてアートを活用した地域づくりへの関心を高めることができた。また、比較的小規模な取組を支援する「アーティストリゾート創造補助金」の活用数も昨年度より1件増加し、新たに取り組む団体・地域に拡がりが見られた。 ④今年で10回目の節目を迎えた「県ジュニア美術展覧会」では、記念講演の実施や記念図録の発行等により、児童・生徒や学校現場への意識啓発を一層図ったほか、過去最高の出品数を記録するなど活動機会の拡充に寄与した。また、昨年度、(財)鳥取県文化振興財団へ業務移管を行った「芸術鑑賞教室」では、財団のノウハウを活かし、また学校現場のニーズを踏まえた公演選定により昨年度を上回る公演件数が実施されるなど、子どもたちや若年層に対する文化活動の場や鑑賞機会が充実された。 ⑤アートスタート事業では、前年に比べ事業件数が若干減ったものの、未実施だった町が新たに取り組むなど、地域の拡がりが見られた。</p>
---	---

課題及び今後の対応

課題	平成25年度の対応
<p>【小中学校課】 ○全国レベルでの発表の機会が少ないため、文化芸術を体験する機会を学校現場にできるだけ多く情報提供することも必要。積極的な参加への働きかけや支援が課題である。</p> <p>【高等学校課】 ○平成27年度近畿高等学校総合文化祭鳥取大会に向けて、組織・取組を検討する必要がある。 ○高校生まんが王国とつとり応援団での取組を継続していく。</p> <p>【文化政策課】 ①文化芸術活動支援補助金の一層の活用を図り、県内文化活動の活性化につなげる。また、文化団体連合会加盟団体助成事業に対する県文化芸術事業評価委員会の評価を踏まえ、広く一般県民の鑑賞を意識した事業実施に向け、広報や企画内容等において、新たな活動者や鑑賞者の創出につなげる工夫が課題である。 ②「とりアート」では、構想に基づいて育成した人材をどのように活用してとりアートをはじめとする県内文化振興の活性化につなげていくかが課題。「県美術展覧会」では、新規出品者の増加など事業の活性化が課題である。また、「伝統芸能まつり」では、より多くの人に伝統芸能の素晴らしさやその保存・継承の必要性を認識してもらうため、来場者数を増やしていくことが課題。なお、「伝統芸能まつり」は、実施主体を今年度からNPO法人へ移したところであるが、団体の主体的な取組や広報面での工夫が課題である。 ③アーティストリゾートの全体的な推進に向け、活動地域の拡がりやそれを支える推進組織(体制)の更なる強化が課題である。 ④「芸術鑑賞教室」について、より多くの学校で開催し、より多くの児童・生徒に芸術鑑賞の機会を提供すること課題である。 ⑤アートスタート活動に対する支援について、依然として市町村間で温度差が見られ、未実施市町村が解消されていないことが課題である。</p>	<p>【小中学校課】 ○派遣経費の支援のほか、全国レベルの発表の場の誘致などが考えられる。 ○文化政策課や文化振興財団との関係機関との連携強化を図る。</p> <p>【高等学校課】 ○各団体の意見を聞きながら、文化部活動の振興に取り組んでいく。 ○高校生まんが王国とつとり応援団での取組を各学校での自主的な取組につなげていく。</p> <p>【文化政策課】 ①支援補助金は、文化活動者等のニーズを踏まえ、25年度に向けて助成内容の見直しや募集期間の柔軟化などの改善を図った。今後も文化活動者の声を聞きながら、文化活動の活性化につながるものとしていく。また、文化団体連合会加盟団体助成事業については、評価委員会との意見交換を通じて、県民満足度の高い事業へ改善を図っていく。 ②「とりアート」で育成した人材の活用に向け、「人材育成・活用プラン」を作成する。「県美術展覧会」では、若手作家などへの周知強化を図るため、新たな広報媒体を活用した情報発信を行うとともに、事業の魅力向上のための新たな企画を検討・実施する。「伝統芸能まつり」では、より集客が見込める日程等への変更など見直しを検討する。 ③市町村や活動団体等への周知や連携を強化するとともに、今年度、新規事業の実施とともに立ち上げた「アーティスト・リゾート・イン・とりとり事業評価委員会」による評価等をもとに、事業内容や推進体制の改善を図っていく。 ④公演選定や過去の開催実績等を考慮しながら、より多くの学校で開催できるよう調整していく。 ⑤未実施市町村を中心に事業への理解を深めてもらうため、引き続き市町村に対する事業説明会等を実施する。</p>

No.	数値目標	20	21	22	23	24	25(最終年度)
1	児童生徒が文化芸術に触れる機会を持つように努める(2年に1回以上)(現状71.8%(H18及び19に文化芸術に触れた学校の割合))【再掲2-(2)】	—%	小88% 中82%	—%	小97.8% 中83.3%	—	100%

※学校における鑑賞教室等に関する実態調査は5年に1回の調査のため、H21実績からの「学校教育成果と課題」で実態を把握した。H22は未調査。H23は「学校教育実施状況調査」から。

アクションプラン評価

所属名	教育委員会(事務局) 教育総務課
-----	------------------

(1)項目	<p>4 文化・芸術の振興と文化財の保存・活用</p> <p>(2)文化財を大切にし、身近に感じ、親しむことができる地域づくり</p> <p>【目指すところ】</p> <p>①文化財を大切にし、身近に感じ、親しむことができる地域づくり</p>
-------	---

(2)取組の方向	<p>①文化財を大切にできる機運の醸成【再掲2-(2)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民が歴史や文化を誇りに思い、文化財を大切にできる機運の醸成。 ・文化財主事による学校等への出前講座などの充実。 <p>②文化財保護の推進と情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財指定、登録、指定後のフォローアップ等による文化財保護の推進。 ・文化財の積極的な情報発信と活用の促進。 <p>③文化財を身近に感じ、親しむ地域づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の身近な文化財を訪ねる楽しさを伝える活動や身近な無形民俗文化財を地域で伝承していく活動の支援。 ・妻木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡をはじめとする本物の文化財に触れ、楽しめる環境の整備及び活用の促進。 <p>④三徳山の世界遺産登録に向けた学術調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三徳山の世界遺産登録に向けた学術調査の推進と登録に向けた取組みの支援。
----------	--

(3)H24アクションプランの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県指定、登録等の候補になり得る文化財の調査研究を行い、指定に向けて積極的に取り組むとともに、妻木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡について、シンポジウムなどのイベント開催などにより積極的に県内外に情報発信を行います。 ・青谷上寺地遺跡を保存、整備、活用するため史跡指定地を平成20年度から10ヶ年かけて公有化します。 ・民俗芸能フォーラムの開催など伝統芸能の支援を行います。 ・県内の優れた文化遺産を観光資源としても活用できるよう、その魅力の発掘を行います。
-------------------	--

(4)主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ▽「とっとりの文化遺産」魅力発掘・知的好奇心アップ事業 ▽青谷上寺地遺跡史跡指定地公有化・保存活用事業 ▽妻木晩田遺跡調査整備事業(発掘調査) ▽鳥取県の考古学情報発信事業 ▽情報発信「とっとり弥生の王国」 ▽伝統芸能等支援事業 ▽文化財助成費 ▽池田家墓所整備活用促進事業 ▽鳥取県文化財防災・防犯対策事業 ▽情報発信「鳥取県の文化財」 ▽調査研究「鳥取県の文化財」 ▽ふるさと鳥取見学(県学)支援事業 ▽山陰海岸ジオパーク映像資料充実事業
---------	---

最終評価

①文化財を大切にし、身近に感じ、親しむことができる地域づくり

最終評価	<h1 style="font-size: 2em;">B</h1>	評価理由	<p>【文化財課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財の新規指定の件数が目標を上回った。 ○青谷上寺地遺跡やむきぼんだ史跡公園については、入場者数は目標にはとどいていないが、地元や周辺史跡との連携、各種イベントによる史跡の活用を図ったほか、出前講座も積極的に行うなど、文化財の魅力を発信できた。
------	------------------------------------	------	---

(6)平成24年度取組状況と成果等

①文化財を大切にし、身近に感じ、親しむことができる地域づくり

H24の取組と成果	
H24年度の取組(年度末現在)	成果
<p>【文化財課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財の調査研究を実施して、国、県指定、登録等に必要となる学術的な評価を行い、文化財指定に向けて積極的に取り組んだ。 ○地元を巻き込んだ「文化財を大切にし、身近に感じ、親しむ地域づくり」をめざすため、ボランティアを育て活用する仕組みを検討した。 ○子どもたちの「歴史と伝統を尊重する」心を育て、知的好奇心をくすぐるような取組や情報発信を行うとともに、教育委員会事務局関係各課と連携した取組を進めた。 ○文化財主事等による出前講座の博物館等と連携した学校現場等への情報発信を行った。 ○県内の特に個人所有の文化財の防犯・防災対策の推進が図れる仕組みづくりを検討した。 ○民俗文化財の保存、伝承の図るため、実態調査や保存伝承活動 	<p>【文化財課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまで調査を行ってきた文化財のうち6件(石造大日如来坐像、花籠祭、菊慈童・花鳥図、竹虎図屏風、龍虎図屏風、奥田家住宅)を新たに県指定(選択)した。5年間で計15件の指定を目指していたが、32件と目標を大きく上回った。 ○地元のボランティアガイドの協力により妻木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡の解説を行い、来場者の満足度の向上が図られた。 ○小学校や公民館などでの出前講座や青谷上寺地遺跡フォーラムなどにより文化財について情報発信し、文化財への理解が深まった。 ○文化財保護推進のため、各種パンフレットや県内の文化財を分かりやすく解説した「文化財ナビ」をホームページに掲載するなどによる情報発信、調査研究を実施した。

への支援を行った。

- 所有者の負担の軽減を図るため、文化財の防犯防災対策補助金の補助率高上げを行い、さらなる防犯防災対策の推進を図った。
- 弓浜半島のトンドの調査結果をとりまとめ、報告書の刊行や、フォーラムの開催などにより、地元の理解を深めた。

課題及び今後の対応

課題	平成25年度の対応
<p>【文化財課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財をもっと知ってもらい学校教育でも活用されるよう市町村や小中学校などと連携して取り組む必要がある。 ○二大遺跡である妻木晩田遺跡と青谷上寺地遺跡の県外への情報発信において、他部局と十分な連携が必要である。 ○埋もれている文化財を掘り起こすことも課題となっている。 ○少子高齢化、過疎化などにより民俗文化財の伝承が困難となり、休止等に至る地域がある。 	<p>【文化財課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中学校などと連携し、校外学習等で妻木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡、建造物などの文化財に触れる機会を増やす。 ○情報発信等の目的やターゲットにより、他部局等と役割分担、連携を図りながら進める。 ○埋もれている文化財の掘り起こしや事例を紹介しながら、市町村での取り組みの参考になるマスタープランを作成し、活用を図る。 ○民俗文化財の現状と課題を把握し、保護継承の仕組みづくりを検討する。

No.	数値目標	20	21	22	23	24	25(最終年度)
1	県指定文化財の新規指定件数	3件	4件	12件	7件	6件	合計15件
2	妻木晩田遺跡来場者数	31,895人	26,211人	38,198人	35,125人	33,032人	50,000人
3	青谷上寺地遺跡展示館来場者数	10,321人	8,195人	7,465人	7,886人	7,698人	20,000人